

学 科 試 験 問 題

国語(現代の国語、言語文化)(60 分)

注 意 事 項

- 1 試験開始の指示があるまで、この冊子の中を見てはいけません。
- 2 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ・氏 名 欄 氏名及びフリガナを記入しなさい。
 - ・受験番号欄 受験番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答は解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10

 と表示のある問いに対して③ と解答する場合は、次の(例)のように解答番号

10

 の解答欄の③ にマークしなさい。解答用紙に、正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨

- 5 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 6 試験開始後、この問題冊子の下欄にも受験番号を記入しなさい。
試験終了後、解答用紙及び問題冊子は回収します。

受験番号

第一問 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部を省略した所がある)

日本列島は南北に細長く、地形の変化に富んでいる。地形だけではなく、モンスーン地帯に属するこの列島の気候もまた変化に富み、季節によってその景観を一変させる。日本のような四季を持つ国は世界でも珍しいといつてよい。しかも、その四季が年間に等分され、さらにひとつひとつの季節が、初・中・晩に三等分される。きわめて変化に富みながら、その変化がきわめて規則的であるという風土——これが何よりも日本人の特質をつくりあげたのだ。第一に日本人特有の無常感である。無常観といえ、それは仏教の基本的な世界観であり、日本人の無常観は仏教によって教えられたもののよう受けとられている。たしかに仏教は日本人に「無常」という観念を教えた。しかし絶え間なく季節が移ろい、四季がかくも規則的にめぐってくる風土に住みながら民族の感情を支配するのは、何より

A

なのである。だから、日本人の心の底には、もともと無常感が住みついていたので。日本人が仏教を受け入れたのは、まさにそのゆえであった。

島国に住みつた日本人は異国の文化をつぎつぎ取り入れ、しかもその受け入れ方はきわめて無批判的だった、とよくいわれる。たしかに日本人は異質の文化に強い好奇心を抱きつづけてきた。けれど、日本人はそれら異文化を無批判的に受け入れたようでありながら、じつは無意識のうちにきびしい^⑦取捨選択を行ってきたのである。そして、たとえ受け入れても、それを日本的に変質させずにはおかなかった。仏教が日本に根づいたのは、その教えがたまたま日本人にとって理解しやすく、共鳴するところが多かったためなのである。しかも、日本人はその仏教でさえもすっかり日本的に変質させてしまった。日本人が仏教をいかに日本流に解釈、いや改^{なかわ}釈したかについては、中村元『東洋人の思维方法』(「日本人の思维方法」)にくわしく指摘されている。

X

「諸法実相」というのは、われわれの経験する諸現象の真実の姿、という意味であるのに、天台学においては、それを「諸法は実相なり」と解釈し、道元は逆に、「実相は諸法なり」と読んでしまう。つまり、現象の奥にある真実の姿という観念が日本的に改^{なかわ}釈されて現象即実在とされ、さらに、真実の姿は現象そのものにされてしまった——というのである。

①それはまさしく日本の特質であろう。その特質は何よりもあの「諸行無常」の日本的な理解にあらわれている。「諸行無常」と漢訳された^{ぶつだ}仏陀のこの言葉は、「万物は変化する」という哲学的な命題である。それはギリシアの哲人ヘラクレイトスが説いた「万物は流転する」とおなじ考え方であり、ヘーゲルの「有限者のすべては成る」という見方とも異ならない。むしろ宗教家である釈迦^{しやか}は、この命題から「無常であることは苦である」という心情を引き出しているが、それにしても「諸行無常」は、この世界を解釈するための基本的な命題なのであり、法則なのだ。

Y

「こうした哲学的な命題が、ひとたび日本に移しかえられると、それは抒情的な詠嘆となり、詩的なイメージに^⑧ボン訳されてしまう。哲学は文学となり、宗教は詩になるのだ。しかも日本人は、無常を嘆きながら、かならずしもそれを苦と思わなかった。むしろ無常に安住し、悲しむというより安らぎをおぼえたのである。だから日本人は、そこからさらに奥へ進もうとせず、流転する現象界にとどまり、その実相をきわめようとはしなかった。そ

して反対に、常住なるもの、永遠なるもののほうに怖れを抱くようにさえたのである。それをよく語っているのが兼好けんこうであろう。『徒然草』つれづれぐさに彼はこう記す。

〔注1〕あだし野の露きゆる時なく、鳥部山の烟立ちさらでのみ住みはつる習ひならば、いかに物のあはれもなからん。世は定めなきこそいみじけれ
(第七段)

人間の生命いのちはあだし野の露のようにはかないものではあるが、もしその露が消えないとしたら、また、死者を焼く鳥部山の煙が立ち去らないように、いつまでもこの世に住みつづけるのだたら、なんと味気ないことであろう。世は無常だからこそおもしろいのだ——というのである。だが、これは決して兼好の逆説aなのではない。日本人のだれもがそう思っているのだ。日本人は例外なく「折節の移りかはるこそ、ものごとにあはれなれ」という彼の言葉に深い共感を寄せるのである。そして、こうした「B」を生みだしたものは、三カ月ごとに「折節の移りかはる」日本の風土以外に考えられない。

現象即実相、実相即現象として現象の世界に安住する日本人の現象観は、さらにこの国の景観とも密接に関係しているように思われる。日本列島にはまるで背骨のように山脈が走っており、国土の七〇パーセントが森林におおわれている。山容はきわめて複雑で植生もじつに多様である。当然、神の依代よりしろに事bを欠かない。依代よしろというのは、神がそこに依る聖樹や聖石といった自然物である。そうした自然物がまわりにたくさんあれば、無数の神々がそこに依ることになる。日本に八百万の神々がひしめいているのは、このように多サイcな自然のゆえである。自然が多様であれば、いきおい神々も多様にならざるをえない。したがって、こうした風土には一種の汎神論はんしんろんが生まれる。「注2」何事のおはしますをば知らねども」一木一草に至るまで神の姿が宿るように思われてくるのだ。

じつさい日本人の自然観は汎神論といってもいいであろう。むしろ、その原初形態は「注4」アニミズムと呼ぶべきかもしれないが、日本人はそれをやがて芸術の理念として、一種の汎神論へ高めたのである。芭蕉ばしょうの『笈の小文』おのこぶみに見られるつぎのような造化論は、まさにそれではないか。彼はこう記す。

「西行さいぎようの和歌わがに於ける、宗祇そうぎの連歌れんがに於ける、雪舟せつしゆうの絵えに於ける、利休りきゆうが茶ちやに於ける、其の貫道くわんどうする物は一なり。しかも風雅ふうがに於けるもの、造化そに随したがひて四時しじを友とす。見る処ところ、花にあらざといふ事なし、思ふ所、月にあらざといふ事なし。像かたち、花にあらざる時は注5夷狄いてきにひとし。心、花にあらざる時は鳥獸いに類す。夷狄を出で、鳥獸を離れて、造化に随ひ造化に帰れとなり」

彼がここにいう「造化」とは、老莊思想に学んだ觀念とされている。しかし^(注6)前記の『奥の細道』にもあるように、彼は「造化の天工」を「大山祇のなせるわざ」に置きかえている。つまり芭蕉は造化（自然）に大山祇を見ているのである。そして③このような造化の觀念は、さらに具体的な「花」や「月」に置きかえられる。だから彼の俳諧に詠まれる「花」や「月」は、ただの「花」や「月」ではない。それはいわば造化のシンボルなのであり、神々の依代なのだ。芭蕉が「松の事は松に習へ、竹の事は竹に習へ」と説いたのは、松や竹をたんなる対象としてではなく、造化の象徴として、神の依代として見つめよ、ということなのである。

森本哲郎『そして文明は歩む』より

注 1 あだし野の露きゆる時なく、鳥部山の烟立ちさらでのみくあだし野、鳥部山はともに葬送の地。

2 汎神論Ⅱ万物に神が宿っており、一切が神そのものであるとする思想。

3 何事のおはしますをば知らねどもⅡ西行法師の歌「何事のおわしますをば知らねどもかたじけなさに涙こぼるる」。

4 アニミズムⅡ万物に靈魂や意識が宿するという思想。

5 夷狄Ⅱ未開の民。

6 前記の『奥の細道』Ⅱ松嶋の美しさについて「千早振る神の昔、大山祇のなせるわざにや。造化の天工、いづれの人か、筆をふるひ詞を尽くさむ」とする箇所。「大山祇」は山の神。

問1 二重傍線部㉞㉟のカタカナにあてはまる漢字と同じ漢字を、カタカナの部分に用いるものはどれか。それぞれ後の㉞㉟の中から一つ選びなさい。

㉞取シヤ 解答番号 1

㉟道がシヤ断される

① 山のシヤ面を登る

② 心理描シヤの巧みな小説

③ 四シヤ五入のやり方を学ぶ

㉞ホン訳 解答番号 2

㉟準備にホン走する

① 小説をホン案する

② 家臣が謀ホンを起こす

③ 資ホンを提供する

㉞多サイ 解答番号 3

㉟美しい色サイの絵

① サイ血検査を行う

② 山サイ料理を食べる

③ サイ能ある作家

問2 空欄

X

・

Y

に入る言葉として最も適当なものを、それぞれの後の①～③の中から一つ選びなさい。

X

 解答番号

4

- ① つまり ① とりわけ ② たとえば ③ もちろん

Y

 解答番号

5

- ① むしろ ① ところが ② だから ③ あるいは

問3 波線部 a「逆説」、b「事を欠かない」の意味として最も適当なものを、それぞれの後の①～③の中から一つ選びなさい。

a 逆説 解答番号

6

- ① 物事が食い違っていて、つじつまが合わない
② 順番や流れに逆らい、反対の方向に向かう
③ 事の成り行きが、それまでとは反対になる
④ 普通とは逆の発想や語り口で、物を考える

b 事を欠かない 解答番号

7

- ① 必要なものがそろっていて不自由しない
② 湧き上がってくる感情を抑えられない
③ 自分の力では相手を扱いきれない
④ 地道な努力を惜しまない

問 4 傍線部①「それはまさしく日本の特質であろう」とあるが、ここでいう「日本の特質」の例として適当でないものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 8

- ① 「諸法実相」を「諸法は実相なり」や「実相は諸法なり」のように解釈したこと。
 「諸行無常」を「万物は変化する」や「万物は流^{バン}・^タ・^{レイ}転する」のように解釈したこと。
 ② 「諸行無常」という命題を、抒情的な詠嘆や詩的なイメージとしてとらえたこと。
 ③ 無常を苦や悲しみとばかり受け止めず、そこに安住して安らぎをおぼえたこと。

問 5 空欄 A・B に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを、それぞれ後の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 9

- | | | |
|---|---------|---------|
| ③ | A ∥ 無常感 | B ∥ 無常感 |
| ② | A ∥ 無常感 | B ∥ 無常観 |
| ① | A ∥ 無常観 | B ∥ 無常感 |
| ④ | A ∥ 無常観 | B ∥ 無常観 |

問 6 傍線部②「何事のおはしますをば知らねども」とあるが、筆者はここに日本人のどのような感覚が現れていると考えているか。その説明として最も適当なものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 10

- ① どこにいるか分からない神に常に見張られていると感じ、おびえる感覚。
- ② 実体のない神など信じられないと考え、その存在に疑問を抱く感覚。
- ③ 姿の定かでない神に神聖なものを感じ、心から崇拜する感覚。
- ④ 姿を見せない神に親しみを感じ、友人のように接する感覚。

問 7 傍線部③「このような造化の観念は、さらに具体的な『花』や『月』に置きかえられる」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 11

- ① この世で見るものや思うものは、すべて「花」であり「月」であるということ。
- ② 「花」や「月」の美しさを理解しないものはみな、野蠻人や動物と同類であるということ。
- ③ 「花」や「月」をただありのままに見て、感じたものを俳諧に詠み込むべきだということ。
- ④ 自然そのものに神の存在を感じ、「花」や「月」を神の宿るものとみなすべきだということ。

問 8 本文の内容に合致するものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 12

- ① きわめて変化に富みながら、その変化がきわめて規則的であるという日本の風土から、基本的な世界観としての無常観が生み出された。
- ② 日本人は異国の文化を積極的に取り入れながらも、それらを無意識のうちに日本的に変質させることで自分のものとしてきた。
- ③ 無常であることは苦であるからこそ、日本人はその苦を進んで受け入れ、無常だからこそ面白いという逆転の発想に至った。
- ④ 日本人は原初的なアニミズムを高度な汎神論へと変質させ、老荘思想に近いところまで発展させることに成功した。

第二問 次の各問いに答えなさい。

問1 次の傍線部に相当する漢字を、後の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **13**

彼はとてもホ|ガらかな性格だ。

- ① 明 ① 朗 ② 快 ③ 活

問2 次の漢字の部首名を、後の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **14**

雇

- ① とかんむり ① おおざと
② がんだれ ③ ふるとり

問3 次の文の空欄に入る言葉として最も適当なものを、後の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **15**

あんなに小さかった子がもう社会人になるなんて、光陰 の如しだね。

- ① 水 ① 風 ② 矢 ③ 夢

問 4 次の熟語の中で湯桶読みに当たるものを、後の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **16**

- ① 本題 ① 合図 ② 切手 ③ 味方

問 5 「その場の状況によって適切な手段を取る」という意味の四字熟語として最も適当なものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **17**

- ① 臨機応変 ① 朝三暮四 ② 羊頭狗肉 ③ 温故知新

問 6 傍線部が形容詞であるものとして最も適当なものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **18**

- ① こちらにいらつしやい。
② ああ、きれいだ。
③ しばらくそのままお待ちください。
④ 外がさわがしくなってきた。

問 7 次の傍線部に相当する漢字を、後の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **19**

税金をおさめる。

- ① 収める ① 治める ② 納める ③ 修める

問 8 「石橋を叩いて渡る」ということわざの意味として最も適当なものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **20**

- ① 用心深いこと ① 出し惜しむこと
② 無謀なこと ③ 乱暴なこと

問 9 次の俳句の季節として最も適当なものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **21**

五月雨や大河を前に家二軒

与謝蕪村

- ① 春 ① 夏
② 秋 ③ 冬

問 10 歴史物語にあたる古典作品を、次の①～③の中から一つ選びなさい。
解答番号 **22**

- ① 『十訓抄』 ① 『方丈記』 ② 『伊勢物語』 ③ 『大鏡』

第三問 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(設問の都合上、一部を省略した所がある)

人が本を読まなくなった。あれほど堅固に見えた〈紙の本〉への信頼感がぐらりと揺らいだように思える。このさき私たちの読書^㉞カン境はどう変わってしまうのだろうか。

こうした不安をもたらした犯人はデジタル革命だという説があります。ゲームやSNSのせいだとか、なにかもインターネットがわるいのだから――。

でも、はたしてそう簡単にいいきってしまうのかどうか。

だいたいち若者の「本ばなれ」が顕著になった七〇年代末には、デジタル時代はまだ緒についたばかり。戦後はじめて本の総売上が^㉟下コウに転じたのも、インターネットや携帯電話が広く定着したのも、すべて九〇年代が終わり近くなってからのことなのです。であるからには、どう考えても読書習慣のおとろえの責任をまるごとデジタル革命に負わせることにはむりがある。それよりも、このおとろえは二十世紀後半、デジタル革命の開始以前に、〈紙の本〉の世界の内側で徐々に^a醸成されてきたと考えておくほうが、よほど自然なのではないだろうか。

もうひとついえば、新しく興隆したメディアが〈紙の本〉をほろぼすという危機の構図にしても、それ自体は新しいものではなく、すでに出版産業化が本格化した一九二〇年代にはすがたを現していました。このときの本の敵は映画(無声映画)です。たとえばチェコの人気作家でジャーナリストのカレル・チャペック。かれは一九二五年に、早くも^bXに足を踏み入れた映画の力をたたえて、これからは本を読む「^㊱概念的タイプ(老年世代)」にかわって映画で再教育された「視覚型人間(現代の人間)」が増えてゆくだろう、と予言していた。

読書タイプの人間は忍耐強い。周囲の状況を認識し、事件の記録のなかに腰を据え、話を最初から最後までたどっていくだけの十分な時間を取る。

視覚的タイプはそれほど忍耐強くありません。状況を一目で把握し、時間をかけずに話の筋を飲み込んでしまいたがります。そして、次の瞬間にはもう新しい何かを物色しているのです。しかし、もしかしたら、たっぷり息を吸うために、映像の急流から逃れ、本に戻る人も出てくるかもしれません。(略)多分ね、そんなこと誰にわかるのです?――多分、書物はだんだんと死に絶えていくでしょう。もしかしたらバビロンの文字の書かれた煉瓦^{レンガ}のように奇妙な記念碑になるでしょう。でも、芸術は死に絶えることはありません。(「目の世代」)

文脈がすこし混乱しているので、チャペックが「本に戻る人」に批評的な距離をおいているようにも読めます。でも、たぶんそうじゃないな。かれが人間をつくりかえる映画特有のスピード感に魅^みせられていたのは事実でしょうが、それと同時に、ねばりづよく「周囲の状況を認識」し、十分な時間をかけ

て「最初から最後まで」話につきあうという「読書タイプの人間」の習性にも、おなじくらい、もしくはそれ以上につよく共感していた。【1】チャペックが同時期に書いたいくつかのエッセイから見ても、かれのうちに「進歩する人間」とならんで、ひとりのYな「本に戻る人」がいたことはあまりにもあきらかなのです。

そして、このチャペックのうちなる「読書タイプの人間」と「視覚型人間」との葛藤の劇が、百年後、映画をインターネットに、「視覚型人間」を「デジタル型人間」におきかえて、そっくりそのまま繰りかえされます。【2】私の場合でいえば、数年まえ、たまたま雑誌で（注）津村記久子の「咳と熟読」という文章を読み、おや、おれは以前、これと似たようなことをどこかで読んだことがあるぞと、チャペックのこのエッセイのことを思いだした。津村の「咳と熟読」によると、いつとき本をはなれてインターネットに熱中した彼女は、やがてネット情報の「瞬間湯沸かし」的な（注）収シユウに疲れて、ふたたび本を読むようになったらしい。「情報」をいそがしく「脳味噌（のうみそ）に注入」するかのとき「飽和状態」のなかで「逆説的に、②自分が本から得ていた主な栄養は「情報」ではないのだな」と気づいたというのです。

本を読み始めた頃、読むことは、ひたすら体験だった。図書室で借りてきた本のぼろぼろさ加減とその物語は、一体のものとなって記憶されている。喘息の発作の後、親に隠れて本を読んでいる自分自身もまた、物語の一部だったように思える。ああ、『チム・ラビットのぼうけん』はおもしろかったなあ、と思い出す時は、必ず、小学二年の時に住んでいたマンションの六畳の寝室と、窓から差し込む昼間の光と、苦かった薬と裏腹に魅力的だった吸入器の味のことを思い出す。

そういう、体を伴った読書を再び求める。

ネット情報とのつきあいに疲弊して「読書を再び求める」ようになった。つまりはそういうこと。彼女もまた、チャペックがいう「たつぷり息を吸うために、映像〔情報〕の急流から逃れ、本に戻る人」のひとりだったのです。

③ チャペックと津村記久子――

この二人の作家の百年の時をへだてた体験をならべてみると、〈読書の黄金時代〉としての二十世紀が、じつは終始、かならずしも安定したものでありつづけていたわけではないことがわかります。いかにも私たちは、いまデジタル革命の衝撃で④〈紙の本〉がはじめて危機にさらされているように感じている。【3】チャペックによると、すでに前世紀の二〇年代、〈読書の黄金時代〉がその盛期にさしかかろうとするころには、映画の成熟によって、かれ自身をふくむ本好きたちまでが、いち早く、その危機を予感するようになっていたらしい。

そして、この点にかかわってもうひとつ見すごしてならないのが、この危機が同時に〈紙の本〉の力を人びとが発見しなおす機会になったということだ

す。

日用品としての本に慣れすぎて、私たちはともすればそのありがた味を忘れてしまう。そんなとき、ふいに衝撃的ななにごとかにぶつかり、忘れていたありがた味を新鮮なものとして見つけなおす。《読書の黄金時代》前半期での「なにごとか」は映画だったが、それに匹敵する後半期のできごとがインターネットの出現です。【4】そして映画の場合と同様に、今回も新しい「なにごとか」に震撼させられた《紙の本》が、逆に、あわただしい情報ラッシュに疲れはてた人間がそこに戻ってゆく代替のきかない強力な場として再発見される。それがチャペックの「本に戻る」だったし、津村記久子の「読書を再び求める」でもあるのでしょうか。

注 津村記久子……小説家。二〇〇五年に太宰治賞を受賞。

津野海太郎『読書と日本人』より

問1 二重傍線部⑦⑧のカタカナにあてはまる漢字と同じ漢字を、カタカナの部分に用いるものはどれか。それぞれ後の①②③の中から一つ選びなさい。

⑦ カン境

解答番号 23

① 血液が循カンする

① 行方不明者が生カンする

② 圧カンの演技を見せる

③ 祖父のカン病をする

⑧ 下コウ

解答番号 24

① コウ乙つけがたい

① 田畑がコウ廢する

② 店番をコウ代する

③ 学校の昇コウ口

⑨ 収シュウ

解答番号 25

① ごみが悪シュウを放つ

① 今後の去シュウを問う

② シュウ団で下校する

③ アメリカ合シュウ国に住む

問2 空欄

X

・

Y

に入る言葉として最も適当なものを、それぞれ後の①～③の中から一つ選びなさい。

X

 解答番号

26

- ① 幼年期 ① 導入期 ② 成熟期 ③ 衰退期

Y

 解答番号

27

- ① 本能的 ① 確信的 ② 否定的 ③ 協力的

問3 波線部 a「醸成」・b「飽和」の意味として最も適当なものを、それぞれ後の①～③の中から一つ選びなさい。

a 醸成 解答番号

28

- ① 最盛期を過ぎる
② 十分に成熟する
③ 一瞬でできあがる
④ 段階的に形成する

b 飽和 解答番号

29

- ① 最大限度に達する
② 飽きて退屈する
③ 満足した状態になる
④ 一転して毒になる

問4 傍線部①「概念的タイプ(老年世代)」とあるが、ここでいう「概念的タイプ」とはどのような人か。として最も適当なものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **30**

- ① 周囲の状況を認識し、事件の記録に腰を据え、話を最初から最後までたどっていく人。
- ② 状況を一目で把握して話の筋を飲み込みたがり、すぐに新しい何かを物色している人。
- ③ たっぷり息を吸うために、映像の急流から逃れ、また本に戻ってくる人。
- ④ 映画特有のスピード感に魅せられ、「本に戻る人」に批評的な距離をおく人。

問5 傍線部②「自分が本から得ていた主な栄養は『情報』ではないのだな」とあるが、どのようなことを「主な栄養」として本から得ていたのか。その説明として最も適当なものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **31**

- ① 親に隠れてこっそり読書することで解放感を味わい、反抗心や自立心を養ったこと。
- ② 読書によって単なる知識にとどまらない、生きていく上で必要な真実を学べること。
- ③ 家の貧しさや病気の辛さを忘れ、読書によって主人公になりきって冒険すること。
- ④ 物語の内容だけでなく、読書中の自分自身や状況までも体験として記憶すること。

問 6 傍線部③「チャペックと津村記久子」の共通点として最も適当なものを、次の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **32**

- ① 映像「情報」やネット情報とのつきあいに疲弊し、「読書を再び求める」ようになる点。
- ② 視覚的な情報の価値を認めつつ、じっくり本と向き合うことの意味を再確認している点。
- ③ スピード感重視の情報を敵視し、読書から得られる体験こそが最高だと主張している点。
- ④ デジタル革命の衝撃で「紙の本」が危機にさらされることに、注意を呼びかけている点。

問 7 傍線部④「紙の本」がはじめて、危機にさらされている」とあるが、筆者はその「危機」をどのようにとらえているか。最も適当なものを、次の①

～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 **33**

- ① どんなに危機にさらされようが、読書の優位性は決して揺るがないことを確信している。
- ② 繰り返し危機にさらされることで、読書の価値は失われてしまうのではないかと危惧している。
- ③ 危機にさらされるたびに本の価値が問い直され、読書に立ち返る人が現れると確信している。
- ④ 危機にさらされてから、読書のありがた味を思い出しても間に合わないかと危惧している。

問 8 次の一文は本文から抜き出したものである。本文の【 1 】～【 4 】のどこに入るか。最も適当なものを、後の①～③の中から一つ選びなさい。

解答番号 34

でもちがうんですね。

- | | | | |
|---|---|---|---|
| ③ | ② | ① | ④ |
| 【 | 【 | 【 | 【 |
| 4 | 3 | 2 | 1 |
| 】 | 】 | 】 | 】 |

問 9 本文の特徴を、次の①～④の中から二つ選びなさい。

解答番号 35・36 (35) 36の解答欄に番号順に一つずつ入れる

- ④ 最初に結論を述べ、最後でそれを繰り返す総括型の構成をとっている。
- ① 話し言葉を織りまぜて、読者に語りかけるような印象を与えている。
- ② 有名人の意見を引用することで、自分の意見を権威づけようとしている。
- ③ 読者自身の体験を問いかけ、自分の問題として考えさせようとしている。
- ④ 冒頭で投げかけた問いに対する答えを、後の文章によって提示している。